

# NYマンハッタン上空を飛ぶ幻のDC-4



“Harvard Business Review“の March 2012版に掲載された  
”Choosing the United States“という記事の最初の頁の写真  
 (“PHOTOGRAPH: Margaret Bourke-White/ Time Life  
 Pictures/ Getty/ Images: A DC-4 over midtown Manhattan,  
 1939”とある) に写っている飛行機に疑問を持ち、調べてみました。



1939年のマンハッタン上空を飛行するDC-4

# これは本当にDC-4なのか？

- ダグラスDC-4は、日米開戦後の1942年に完成・初飛行した軍用機C-54が原型。戦後、民間用に転用された他、多数製造されたが1939年にNY上空を飛行したというのはおかしい。
- DC-4も前身の軍用型機C-54も垂直尾翼は一枚だが、写真の飛行機には垂直尾翼が3枚ある。垂直尾翼が3枚ある4発プロペラ機は、ロッキードのL-49コンステレーション(軍用型機はC-69、後のC-121)と、戦後に民間航空で使用された発展型L-1649スーパーコンステレーションしか思い当たらないが、こちらも開発・初飛行は日米開戦後の1942年である。
- 写真の飛行機の機首部分は後のDC-4と似ていて、ロッキードのコンステレーションとは全く異なる。また、3枚ある垂直尾翼の下部の形状もロッキード社のコンステレーションとは異なり、同じ設計思想によるものとは思われない。



ロッキード社のスーパーコンステレーション



後のDC-4の原型となった軍用機C-54



民間機として多数使われたDC-4

終戦後、厚木飛行場に乘込んだマッカーサーと部下達  
(乗機の「バター号」はC54型機。垂直尾翼に注目)



# 分かったこと

右主翼上部の機体番号NC 18100を手掛かりに調べ、  
次のような事実が分かりました(情報源: airliner.com)。

- この機体(NC18100)は、ユナイテッド航空の要請により、双発プロペラ旅客機DC-3の後継機として1938年に1機だけ製作された試作機DC-4E (“Experimental”)。
- この試作機はユナイテッド航空による試験評価された後、路線就航の条件を満足しないと不採用になり、ダグラス社に返還された。
- 年配の航空関係者によれば、写真の下界に写っている風景は1939年頃(戦前)のマンハッタンの街並みに間違いのないとのこと。
- この機体は、VIP輸送用の名目で1940年9月に日本の商社を經由して大日本航空(戦前のJAL)に売却された。
- 日本に到着後、ダグラス社の技術者達の手で組み立てられ、JA6005として登録されたが、1941年(日米開戦の年)に試験飛行中の事故で東京湾に墜落した。
- 一説によれば、この飛行機の本当の買主は中島飛行機で海軍の13試・大型陸上攻撃機「深山」の設計の参考にされたという(米国側の表現)。日本の航空史には、輸入したDC-4を参考にしたと正直に書いてある。